



街をみんなで“nijiirō”に
その種を届けるニュースレター

にじいのたね 3

多様な性のあり方を知る

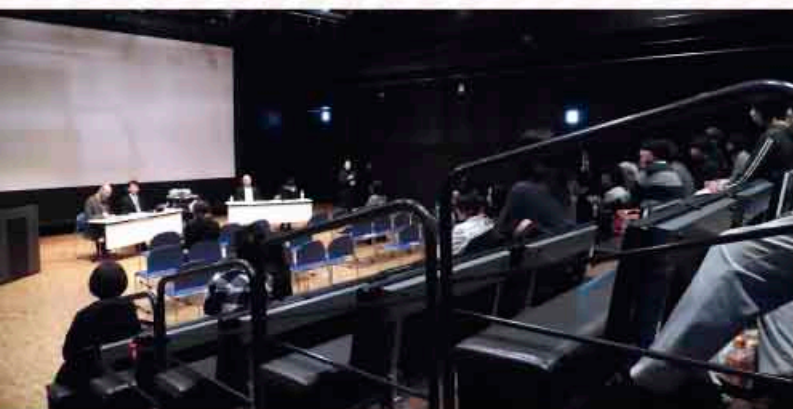
にじいろ協働事業通信 Vol.3 2018.12.15

nijiirō news

イベント「多様な性ととともに育つ」開催

様々な市民グループが参加する「男女共同参画推進せんだいフォーラム2018」で実施しました。善意でなされた授業が子ども達の間で波紋を生んでいく様子を描いた映画「カランコエの花」の上映、若い世代の性的マイノリティを支援している遠藤まめたさんの講演、最後はそのふたつを話題にしたがらのシンポジウムを行いました。

シンポジウムでは、「多様な人材を受け入れる職場にしたい」(ハンバーグレストランHACHI代表取締役 角田秀晴さん)、「制服などの区別が困難を生むことも多い」(尚絅学院中学校・高等学校教諭 赤井慧さん)、「白黒つけずグラデーションで考えることがしっくりきた」(会場より)など、会場を巻き込んで活発に感想や意見が交換がされました。



シンポジウムでは高校生や先生方からも生の声が。貴重な場となりました

... contents ...

<nijiirō news>

イベント「多様な性ととともに育つ」開催

<nijiirō interview>

①《多様な性と大学生》

模索しながら自分を真っすぐに見つめる

②《仕事+多様な性》

皆がありのままを表現できる社会を目指す



「子どもにとって大人はカミングアウトしにくい存在。子ども同士の交流から情報が得られることの方が多く、居場所づくりがカギ。その場はかなり不足しています」と遠藤さん





nijihiro interview ①

《多様な性と大学生》模索しながら自分を真っすぐに見つめる

あゆみさん



homey-touhoku.github.io/index.html

現在大学2年生のあゆみさん。高校1年生の時に、東北のLGBTQの中高校生が、気楽に集まれる場所を作りたいという思いで「HOMEY（ホームミー）」を立ち立ちました。

—大学入学まで、どのように過ごしていましたか

幼い頃から自分が女性であることに違和感を感じていました。ネットや本で情報を集め、中学2年には性同一性障害と自覚。また、性のあり方を自分らしく表現しても幸せになれることも知り、あこがれも感じました。しかし、周囲に理解してくれる人が少なく、中学転校、フリースクール、別室登校、高校中退、高卒資格を取って進学…と、紆余曲折がありました。まともな大人になるためには学校に行くことが必要とっていて、スクールカウンセラーの先生やフリースクールでの出会いにも助けられながら、自分なりに決断して行動し、努力してきたと思っています。

—HOMEYの活動について教えてください

ネットで知り合った友人に会うために、高1の時に関東に行きました。その行動がきっかけとなり、一緒に集まれる場が欲しいと思って立ち上げたのがHOMEY。SNSで呼びかけながら、毎回10名ほど集まり、4年間で30回を超えました。「一人じゃない」ということを伝えたくて続けています。

—将来の夢や展望などを教えてください

将来は性別適合手術も受けたいと思っています、自分らしく穏やかな生活ができるようになることが願い。今は建築について学んでいますが、誰もが居心地の良さを感じる空間が作れるような仕事を探していきたいです。

中澤 恵さん



大学で心理学を学びながら、ボランティアなどにチャレンジする恵さん。恋愛感情を持つのは異性だけではないことをオープンにしています。今年6月には学生対象の勉強会を主催しました。

—どのようにセクシュアリティを受け入れましたか

高校生の頃、異性にも同性にも恋愛感情を抱くことに気付いたのですが、身近に偏見のある人が少なく、驚かれることはあっても否定されることなく過ごしてきました。自分自身も偏見がなく、自然と自分のセクシュアリティを受け入れていたと思います。

—どのような過程でオープンするようになりましたか

大学に入ると性を取巻く社会状況に疑問を持つようになりました。自分が性的マイノリティとして生きていくことに不安を感じ、葛藤を味わった時期もあります。しかし、身近に私のような人がいることを知ってもらおうと考えるようになり、3年生の時にフェイスブックでカミングアウトをしました。言葉やカテゴリーにこだわらず、私は私として生きていることを表現していけたらと思っています。

—今後について考えていることを教えてください

現在4年生ですが、暮らしを支える仕事をライフワークにしたいという思いがあり、医療系の仕事を目指して卒業後さらに専門学校で学ぶ予定です。「生きづらさがなく、皆がハッピーでいられる社会にしたい」というのが今の私のテーマで、宮城、そして東北が多様な性の人も生きやすい地域になって欲しいと感じています。将来は仙台に帰って仕事をしながら、自分に出来る活動をしていきたいと思っています。



nijihiro topics



にじいろキャンパスSENDAI

インタビューに登場した4人、topicsの小野寺さんもメンバーです！

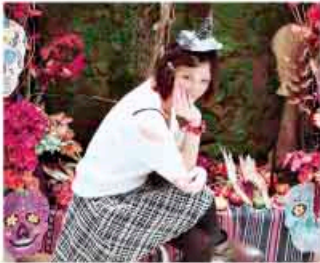
にじいろ協働事業を推進する「にじいろキャンパスSENDAI」。性的マイノリティの人、そうじゃない人、まだよくわからない人も含む市民有志と、東北HIVコミュニケーションズ、仙台市からなる協働チームです。小浜耕治さんが代表を務める東北HIVコミュニケーションズが、このチームのまとめ役をしています。様々なセクシュアリティ、幅広い世代が参加し、多様なメンバーで事業を推進しています。



nijiiro interview ②

《仕事＋多様な性》皆がありのままを表現できる社会を目指す

愛原りをなさん



学生時代にLGBTサークル「BLENDA」を立上げて以来、当事者サポートや、多様な性に関わる情報発信をしてきたりをなさん。社会人になってからは等身大の自分を表現しています。

—これまでどんな葛藤を感じてきましたか

元々は女性性、男性性どちらも併せ持った自分を受け止めていました。男性らしくなろうと頑張ったり、女性になりたい気持ちに素直になったり、誰かの役に立つことで存在価値を見出そうとしたり……その時々エネルギーで突っ走っていましたが、情熱もあり様々な活動に転換することも出来ていました。ぶつかりながら過ごしていたあの時代があったおかげで、今の自分があると思っています。

—社会人になってどんな思いで過ごしていますか

時には社会の反応や自分の揺らぎに押し戻されそうになることもあります。想像以上に穏やかに過ごせています。誰かの役に立つことはもちろん、自分で自分の負の感情をデトックスできることや、周りにプラスのオーラを与えられることにより大きな喜びを感じています。

—どんな大人になっていきたいですか

ありのままの自分を表現して誰かがハッピーになってくれることはとてもうれしいし、自己満足で発信していることもキャッチしてくれる人がいて、本当に有難いと感じます。何か一つ誇れることを見つけて、評価を気にせず表現できるような芯のある大人の女性になることが今の目標。頑張っている人を勇気付ける存在になれるように、一層自分磨きをしていきたいと思えます。

白鳥颯也さん



大学では心理学を勉強。その中で多様な性について学ぶきっかけがあり、卒論のテーマとしたという白鳥さん。現在は自身の出身地である栗原で性的少数者の理解を広めています。

—ご自身の活動でどんなことを伝えていきますか

セクシュアリティは性器や性行動だけが注目されがちですが、社会的、心理的な側面が広く含まれていることを伝えていきます。知らず知らず偏見の目で見たり、判断したりしていることに気付いてもらえたら良いと思いつつ活動しています。

—活動をしようと思った理由を教えてください

大学時代、イベントで当事者と知り合い、性的マイノリティへの差別に問題意識を持ちました。特に自分が育った栗原のような地方にはセクシュアリティを語る場がなく、情報が届いていないと気づいたことが活動をはじめたきっかけです。また、自分自身発達障害の傾向があって、子どもの頃生きづらさを感じていました。その経験がセクシュアリティで悩む子ども達の思いに通じるのではないかと考えています。性的少数者の方々を取り巻く問題について理解を広めることで、多様な価値感、多様な生き方を尊重できる土台を故郷にも作れるのではないかと考えています。

—どんなことを目指していきたいですか

幼児期から成長に応じた性教育をしている国も多い中、日本ではタブーの意識が強く、子ども達の自己肯定感を低くする要因のひとつになっていると感じています。故郷の学校や教育機関とつながり、性的少数者に対する正しい理解を広げながら、皆が生きやすい栗原を目指せるよう頑張ります。

セクシュアリティ＝性的指向や性自認など様々な要素を含む性のあり方 性的指向＝恋愛や性的な衝動が向く性別、好きになる性



小野寺 真さん

ヘアサロンウイング代表

美容師として仕事をしながら、性同一性障害として生きる自分の存在が身近にいる事を知ってもらえるように、教育センターや市内・近郊の中学校、高校などで講演をさせて頂いております。無意識の差別について知ること、様々なことが変わっていきます。未来ある子どもたちのためにできることをしながら、お互い様の仙台になるように、違うセクシュアリティのALLYとしても活動を続けていきます！

にじいろキャンパスSENDAIの兄貴分。イベントリーダーなど活動の要の存在です。



nijiiro report

『にじいろスピーカー派遣』



にじいろ協働事業では、仙台市役所の職員を対象とした研修等に講師を派遣しています。市民利用の施設や相談窓口などで性的マイノリティ当事者が安心して利用できるようにするため、仙台市職員が多様な性のあり方への理解を深めています。

《提供内容例》

- 多様な性のあり方についての基礎知識
- 生活上の困りごと事例…など

▶研修で伝えている多様な性の基本の考え方。それを仙台在住の漫画家、井上きみどりさんがパネルにしてくれました。イベントの展示などで活躍しています。

にじいろ スピーカー派遣



多様な性のあり方の理解と課題の可視化について 多様な協働の場を創出する事業 ～にじいろ協働事業～

市民の一人ひとりが「多様な性」を自分事としてとらえられることを目的として「にじのたね」「にじのひろば」「にじいろスピーカー派遣」と「せんだいレインボー Day」の4つの事業を展開しています。東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろキャンパスSENDAI」を構成して推進します。

当事者や活動する皆さんへのインタビューは、新しい世界を見せて頂いたように感じました。少数派に注目して欲しいということではなく、「誰もが生きやすい社会」という広い視点でとらえており、多数派にとっても、社会全体にとっても役に立つ考え方を教えてもらったように感じ、有意義な時間を頂きました。
(編集部)

●ご意見、ご感想、質問などお寄せください●
にじいろキャンパス SENDAI / にじのたね係

にじいろキャンパスSENDAI

(東北HIVコミュニケーションズ、性的マイノリティもそうじゃない人も含む市民有志、仙台市で構成)

事務局 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2
みやぎのいのちと人権リソースセンター内
東北HIVコミュニケーションズ
TEL/FAX 022-298-8532
[E-MAIL] office@sendai-nijiiro.org
[HP] http://sendai-nijiiro.org



発行 にじいろキャンパスSENDAI
発行日 2018年12月15日
デザイン・編集 トト・ライティング
発行部数 2000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗
市内外の男女共同参画センター